

平成19年度第2回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

日 時：平成19年9月27日（月）午後2時 - 5時

場 所：北海道大学防災研究所 水資源環境研究センター演習室（D-1510）

出席者：吉田真吾、山岸宏光、飯塚 敦、岡田憲夫、加賀屋誠一、真野 明（代理：有働
恵子）、渡邊邦夫、寶 馨、藤田正治、藤吉康志、森脇 寛、牧 紀男

オブザーバー出席：石原和弘（防災研究所長）、鏡味洋史（前議長）

事務局出席：なし

欠席者：水谷法美、矢田部龍一、善 功企、堀 宗朗、間瀬 肇、中田節也

オブザーバー欠席：渡邊 淳、佐藤照子、村田 穰、角井宏司

（順不同、敬称略）

配付資料：

資料1「平成19年度第1回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録（案）」

資料2「突発災害調査研究について」

資料3「第44回自然災害科学総合シンポジウムプログラム及び論文集」

資料4「各地区部会よりの報告」

資料5「平成19年度自然災害研究協議会データベース委員会議事録」

資料6「自然災害研究協議会平成19年度予算（案）」

その他：

議事に先立って、石原所長、岡田議長より挨拶があった。

議 事：

1. 前回議事録の確認 （資料1）

寶総務より、資料1に基づき説明がなされた。資料1の1ページ目オブザーバー出席者「推進室長」→「推進室長補佐」、3ページ2行目「部会著」→「部会長」の修正を行うこととして、前回の議事録が承認された。

2. 突発災害調査研究について （資料2）

吉田委員より、資料2に基づき2件の説明がなされた。

・ 科研費 特別研究促進費 2007年新潟県中越沖地震に関する総合調査（研究代表者：

岩崎貴哉) 7/16 に地震が発生、7/25 にプレス発表。2,325 万円。16 機関、30 名が参画。経費配分の内訳も示された。

・科振費でもう 1 件 7/24 に採択。恒常探査のための研究費として。通常 2 ヶ月くらいかかるところが異例のスピードで採択。選挙の影響もあったかもしれない。

3 . 第 44 回自然災害科学総合シンポジウムについて (資料 3)

竇総務より、翌日に開催されるシンポジウムのプログラムに基づき説明があった。シンポジウム論文集も配付された。

4 . 地区部会からの報告 (資料 4)

北海道地区 (資料 4-1): 加賀屋地区部会長より、第 1 回幹事会・センター運営委員会 (8/8) 日本自然災害学会・学術講演会等実行委員会 (8/8, 9/20) 防災フォーラム (2 月に予定) などについて説明がなされた。。

東北 (資料なし): 有働代理委員より、口頭で東北大学公開講座 (10/31) の予定について報告がなされた。

関東 (資料 4-2): 渡邊地区部会長より、データベース入力状況は約 330 件、自然災害に関する市民オープンフォーラム (1/23) の予定について報告があった。

中部地区 (資料なし): 山岸委員より、新潟大学復興科学研究センターの活動について報告がなされた。中越沖地震に関する報告会 (10/5) 中越地震 3 周年の研究集会 (10/25) 中越沖地震調査団を作って活動を継続している。今回新たに原発の問題、海から流れ着く古木が漁民を困らせている事例が紹介された。地震被害について GIS を用いて罹災証明ができ、県から高い評価を受けているとのこと。

関西地区 (資料 4-3): 矢田部委員作成の資料に基づいて竇委員が代理で報告。関西地区部会と土木学会四国支部の共催で 1/17 に愛媛大学防災情報研究センターにて自然災害フォーラム・シンポジウムを開催予定。

西部地区: 欠席のため報告なし。

5 . データベースについて (資料 5)

牧委員より、資料 5 に基づき、7/24 のデータベース運営委員会の決定事項等について報告がなされた。科研費採択により各地区に 80 万円ずつ配分。運営委員の連絡網。データベース入力方針は、各センター 700 件を目標とすること。データベース SAIGAI の計算機が更新されたこと。

6 . 平成 19 年度予算について (資料 6)

竇総務より、資料 6 に基づいて説明があった。

7．自然災害研究組織の紹介冊子について

昨秋のシンポジウム企画で自然災害研究組織の紹介を行ったが、この種の組織を一覧できる冊子を作成することが今年度の仕事となっていた。予算の都合を見て、今年度中にその実現が可能かどうか検討することとしていた。予算が捻出できるようであれば次回にその素案が提示される。

8．その他

次回の協議会は、3月3，4，10日あたりで調整することとした。

(以上)